

# 環境工学研究論文集の完全版下印刷用 和文原稿作成例

環境 太郎<sup>1\*</sup>・土木 次郎<sup>1</sup>・四谷 花子<sup>2</sup>・John SMITH<sup>3</sup>

<sup>1</sup>環境大学工学部社会環境工学科（〒100-0014東京都千代田区永田町1）

<sup>2</sup>環境フォーラム株式会社 技術開発部（〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目無番地）

<sup>3</sup>JSCE Corp.（〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1）

\* E-mail: t-kan@env.kankyo-u.ac.jp

このファイルは環境工学研究論文集の完全版下原稿（和文）を作成するために必要なレイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています。それと同時に、版下原稿そのものの体裁（A4）をとっているため、このファイルの中の文章や図表をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば、所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます。

この要旨を含め、タイトル部分の幅は本文よりも左右 1 cm ずつ狭くします。和文要旨のフォントは明朝体の9 pt を用いてください。要旨の文字数は 350 字以内（7行以内）とします。要旨の後に1行空けて、キーワードを5つ程度、Times-Italic 10pt のフォントを用いて下記のように記入してください。

**Key Words** : times, italic, 10pt, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line

## 1. タイトルページ

タイトルページは2つの部分で構成されます。

(a) タイトル部分：横1段組（題目、著者、所属、連絡先住所、E-mailアドレス（corresponding authorの電子メールアドレスのみ記載）、アブストラクト、キーワード）で構成。

(b) 本文部分：横2段組

このほか、フッタ（ページ番号）が付きます。なおソフトウェアによっては、タイトル部分とその下の本文部分が別のファイルに分かれていることがあります。

### (1) タイトル部分のレイアウトとフォント

全てのページのマージンはこのサンプルにありますように上辺19 mm、下辺24 mm、左右ともに20 mmに設定してください。タイトル部分の左右のマージンは、本文の左右のマージンよりもそれぞれ10 mm ずつ大きくとって下さい。すなわち、A4用紙の幅に対して左右それぞれ30 mm ずつのマージンをとります。そして以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

（約10mmのスペース）

タイトル：ゴシック体20pt フォント、センタリング

（約15 mmのスペース）

著者名：明朝体 12pt フォント、センタリング

（約5 mmのスペース）

著者所属：明朝体 9pt フォント、センタリング

E-mailアドレス：Times 9pt フォント、センタリング

（約10 mmのスペース）

アブストラクト：明朝体 9pt フォント、7行以内

（1行のスペース）

キーワード：Times-Italic, 10pt, 5つ程度, 2行以内

著者と所属とは肩付き数字で対応づけ、上記のように並べて下さい。また、著者のうち、corresponding author となる方の名前の右肩には、必ず\*を付し、その電子メールアドレスを上記の見本のように\*の後に記載してください。なお、和文要旨の下にある'Key Words' という文字はボールドイタリック体にします。

### (2) 本文部分のレイアウトとフォント

本文とキーワードの間に約 10 mm のスペースを空けてください。本文は2段組で、左右のマージンは 20 mm ずつ、段と段との間のスペースは約 6 mm とします。

本文には明朝体 10pt フォントを用いて下さい。

### (3) フッタ

すべてのページの下辺中央にフッタ機能を使ってページが入りますが、ページ番号は暫定的にタイトルページを第1ページとしてつけてください。

## 2. 一般ページ

第2ページ以降はタイトルページの本文部分と同じレイアウトとフォントで本文を作成します。

### (1) 脚注および注

脚注や注はできるだけ避けて下さい。本文中で説明するか、もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい。

### 3. 見出し（見出しが1行以上に長くなるときはこの例のようにインデントし折り返す）

#### (1) 見出しのレベル

見出しのレベルは章、節、項の3段階までとします。章の見出しはゴシック体とし、2などの数字に続けて書きます。また、見出しの上下にスペースを空けます。このファイルのサンプルから分かるように、上を2行、下を1行程度空けて下さい。ただしページや段が切り替わる部分は章の見出しが最上部に来よう調整してください。

#### (2) 節の見出し

節の見出しもゴシック体で、(4) などの括弧付き数字を付けます。見出しの上だけに1行程度のスペースを空けて下さい。

#### a) 項の見出し

項の見出しは、括弧付きアルファベットを付け、上下には特にスペースを空けません。項より下位の見出しは用いないで下さい。

## 4. 数式および数学記号

数式や数学記号は次の式 (1a)

$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1a)$$

$$F = \int_{\Gamma} \sin z \, dz \quad (1b)$$

表-1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

資料番号	高さ $h$ (m)	幅 $w$ (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65

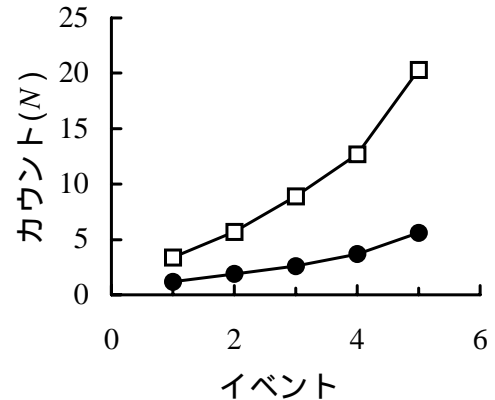


図-2 図のキャプションは図の下に置く

のように本文と独立している場合でも、 $C_D, \alpha(z)$  のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します。数式や数学記号の品質が悪いと版下原稿として受け付けません。

数式はセンタリングし、式番号は括弧書きで右詰めにします。

## 5. 図表

### (1) 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。原稿末尾にまとめたりしてはいけません。また、図表はそれぞれのページの上部または下部に集めてレイアウトして下さい。図表の横幅は、「2段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1 や図-2 のように「1段の幅いっぱい」のいずれかとします。図表の幅を1段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい。図表と文章本体との間には1~2行程度の空白を空けて区別を明確にします。

### (2) 図表中の文字およびキャプション

図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないよ

うに注意してください。特にキャプションの大きさ (9pt)より小さくならないようにして下さい。

長いキャプションは表-1 のようにインデントして折り返します。

## 6. 参考文献の引用とリスト

参考文献は出現順に番号を振り、その引用箇所でのように<sup>1)</sup>上付き右括弧付き数字で指示します。参考文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリストとして示し、脚注にはしないでください。

なお参考文献リストのあとに1行空けて、事務局から通知された原稿受理日を右詰めで書いてください。ただし、最初の投稿原稿を用意していただく時点では、ここに?マークを挿入してください。

## 7. 最終ページのレイアウトと英文要旨

最終ページには英文のタイトル、著者名、所属および要旨を横1段組で書きます。このサンプルにあるように、本文や参考文献リストまでの2段組部分の左右の柱の高さをほぼ同じにし、10 mm 程度の空白を入れて英文要旨を配置します。英文要旨部分の幅はタイトル部分と同じく本文よりも左右を 10mm ずつ狭くします。

謝辞：「謝辞」は「結論」の後に置いて下さい。見出しとコロンをゴシック体で書き、その直後から文章を書き出して下さい。

## 付録 「付録」の位置

「付録」がある場合は「謝辞」と「参考文献」の間に置くこと。

### 参考文献

- 1) 真砂佳史, 小熊久美子, 片山浩之, 大垣眞一郎: 消光型蛍光プローブを用いたリアルタイム PCR 法による水中のクリプトスポリジウムの定量および種別判定手法の開発, 環境工学研究論文集, Vol. 41, pp. 311-319, 2004.
- 2) 日本道路協会: 道路橋示方書・同解説 IV 下部構造編, pp.110-119, 1996.
- 3) Mino T., van Loosdrecht M.C.M. and Haijnen J.J.: Microbiology and biochemistry of the enhanced biological phosphate removal process, *Water Research*, Vol. 32, No. 11, pp. 3193-3207, 1998.
- 4) C. R. ワイリー (富久泰明訳): 工学数学 (上), pp. 123-140, ブレイン図書, 1973.
- 5) Smith W.: Cellular phone positioning and travel times estimates, Proc. of 8th ITS World Congress, CD-ROM, 2000.

(2006. 4. 1 受付)

## Print Sample of Japanese Manuscript for Environmental Engineering Research

Taro KANKYO<sup>1</sup>, Jiro DOBOKU<sup>1</sup>, Hanko YOTSUYA<sup>2</sup> and John SMITH<sup>3</sup>

<sup>1</sup>Dept. of Environmental Engineering, Kankyo University

<sup>2</sup>Environmental Engineering Forum Corporation

<sup>3</sup>JSCE Corporation

This example is to demonstrate the layout of the first page of a “camera-ready” manuscripts for Environmental Engineering Research. Its text describes instructions to prepare the manuscripts: the layout; the font styles and sizes; and others. If you replace the text or the figures of the present file by your own ones, using CUT & PASTE procedures, you can easily make your own manuscripts.

Authors are requested to ensure that abstracts give concise factual information about the objectives of the work, the methods used, the results obtained and the conclusions reached. This English ABSTRACT has narrower width than the main text by 10 mm from the left and the right margins of the main text, respectively. Font used here is Times-New Roman 10pt. A suitable length of abstract is about 150 words and should be within 200 words. It is preceded by the title and the authors; both are centered and the font size is 12pt. The affiliations are centered and in Times-New Roman 10pt.